

平成 28 年 度
豊 橋 の 畜 産

1 家畜飼育農家数・頭羽数

(平成28年2月1日現在：豊橋市調査)

畜 種	戸 数	頭 羽 数	1 戸 当 たり 飼 養 頭 羽 数
乳用牛	59 戸	3,952 頭	67 頭
		経産牛 2,778	
		未経産牛 1,174	
肉用牛	45 戸	8,731 頭	194 頭
		黒毛和種 1,215	
		交雑種 4,496	
		乳用種 2,991	
		その他 29	
豚	42 戸	87,525 頭	2,084 頭
		繁殖豚 成豚 8,215	
		育成豚 1,173	
		子豚・肉豚 78,137	
採卵鶏	15 戸	1,733,839 羽	115,589 羽
		成鶏 1,594,355	
		育成鶏 139,484	
ブロイラー	9 戸	276,014 羽	30,668 羽
うずら	7 戸	1,644,000 羽	234,857 羽
		成鶉 1,430,000	
		育成鶉 214,000	
みつばち	25 戸	292 群	12 群
アイガモ	1 戸	5,000 羽	5,000 羽

※みつばちは、趣味の範囲で飼育している者も含む。平成28年1月1日現在の状況

2 畜産物生産の推移

(平成18年度)

畜種	出荷量・頭数	農業産出額		
		産出額 (千万円)	全国順位(位)	豊橋市品目別 順位(位)
乳用牛	—	310	—	—
内生乳	40,724 t	284	49	6
肉用牛	6,782 頭	164	71	9
豚	129,710 頭	426	13	2
鶏	—	373	—	—
内鶏卵	24,193 t	327	19	5
うずら卵	7,451 t	202	1	8
その他畜産物	—	2	—	—
計		1,477	—	—

※ 出荷量は推定値

3 豊橋の畜産物



4 コメント

豊橋では、南部地域を中心に畜産農家が分布しています。畜種には、酪農・肉牛、豚、鶏、うずらなどがあります。

(1) 酪農・肉牛

酪農では、他の乳牛に比べて乳量の多い「ホルスタイン種」が主で、多くはつなぎ牛舎で飼養され、一日2回の搾乳をしています。

牛乳、乳製品には、日本人に不足しがちな「カルシウム」などの栄養が豊富に含まれていますので、毎日、摂りたいものです。また、平成21年12月には、地域ブランドとして、豊橋酪農家の「のんほい牛乳」が発売され、最近では洋菓子・和菓子業者とコラボし、新しい商品を研究中です。

肉牛においては、ブランド牛「黒潮牛」があります。毎年7月には共進会を行い、腕を競い合ってよりよい商品作りに励んでいます

(2) 豚

豚肉は全国有数の生産地で、飼育されている頭数は、愛知県全体の約20%を占めています。農家のほとんどは、子豚生産から肉豚出荷まで経営する「一貫経営」を行っており、計画生産や防疫の徹底などに力を入れています。また、愛知県で改良された高品質な豚を導入し、おいしい豚肉が生産されています。

(3) 鶏

鶏卵は、本市の中で農業産出額5位の品目です。体力づくりに欠かせない食べ物で、また、「物価の優等生」といわれるほど安価なこともあり、食卓で人気の食材となっています。しかし、近年の飼料の高騰などによる経営環境の悪化で、農家数は減少傾向にあります。そのような逆風の中でも、付加価値の高い鶏卵の生産や高品位のたい肥づくりなどを進め、創意工夫で経営力を強化している農家もあります。

(4) うずら

うずら卵は、全国シェア約50%を占めており、本市の畜産を代表する農産物です。栄養価が高く、良質のたん白質の他、特にビタミン、ミネラル、アミノ酸は鶏卵の約2倍（単位当たり）あります。平成21年に発生した鳥インフルエンザの影響で、7割以上のうずらが殺処分されましたが、今では、うずら農家や農協の努力で飼育数は回復し、うずら肉による新たな需要の開拓やうずらキャラクター「うずラッキー」を活用した販売促進など、ブランド力の強化に向け意欲的に取り組んでいます。

5 食肉の流通

平成28年度 東三河食肉流通センター（事業計画）				
と畜日数	244 日	と畜頭数	牛	9,252 頭
			豚	195,827 頭

東三河食肉流通センターは、東三河地域を流通圏とする総合的な食肉流通施設です。小規模で老朽化した食肉流通センターに替わって、平成5年4月に設立されました。こちらには最新設備が備えてあり、衛生的で効率的なと畜解体処理施設、食肉加工施設、冷蔵保管施設、さらに流通の拠点となる卸売市場設備の諸機能を有しています。

○ 衛生管理

衛生管理推進委員会により、獣畜のと畜解体、部分肉加工、副産物処理等に係る衛生体制を確立し、安全で良質な食肉の供給に努めています。

6 環境保全

(1) 家畜の糞尿排せつ量（生）について

(平成28年2月1日現在：豊橋市調査)

畜種	換算1頭(羽)当たりの糞量 (kg/日)	1日当たりの糞量 (kg)	換算1頭(羽)当たりの尿量(kg/日)	1日当たりの尿量 (kg)	1年当たりの糞尿総量(t)
乳用牛	30.00	100,950	20.0	67,300	61,411
肉用牛	15.00	130,508	10.5	91,355	80,980
豚	1.90	183,475	3.5	337,981	190,332
採卵鶏	0.14	232,974	—	—	85,035
ブロイラー	0.13	35,882	—	—	13,097
うずら	0.03	49,320	—	—	18,002
合計	—	733,108	—	496,636	448,857

※旧計算式にて算出

(2) 年間堆肥生産量（推定）

畜種	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	ブロイラー	うずら	合計
堆肥量(t)	20,634	26,676	22,100	28,062	4,322	5,941	107,734

※ 乳用牛、肉用牛はオガ屑利用による水分調整（堆肥生産率 56%）

※ その他の畜種は戻し堆肥による水分調整（堆肥生産率 33%）

(3) 糞尿処理

畜産経営に伴って生じる糞尿は、畜産廃棄物であることを農家自身が認識し、自らの責任において適切な処理を行うことを基本としています。

畜産環境汚染を未然に防止するために、発酵処理方法などによる飼養規模に見合った糞尿処理施設の整備により、家畜糞尿は有効な有機質資源として農地還元されています。

(4) 環境汚染の発生状況

(内訳については重複あり)

	総件数(件)	内 訳			
		悪臭(件)	水質汚染(件)	害虫(件)	その他(件)
平成25年度	15	10	5	1	6
平成26年度	9	3	1	0	8
平成27年度	8	2	3	1	5